



MIFA NEWS

No. 56

3/31. 2012

Moriya International Friendship Association

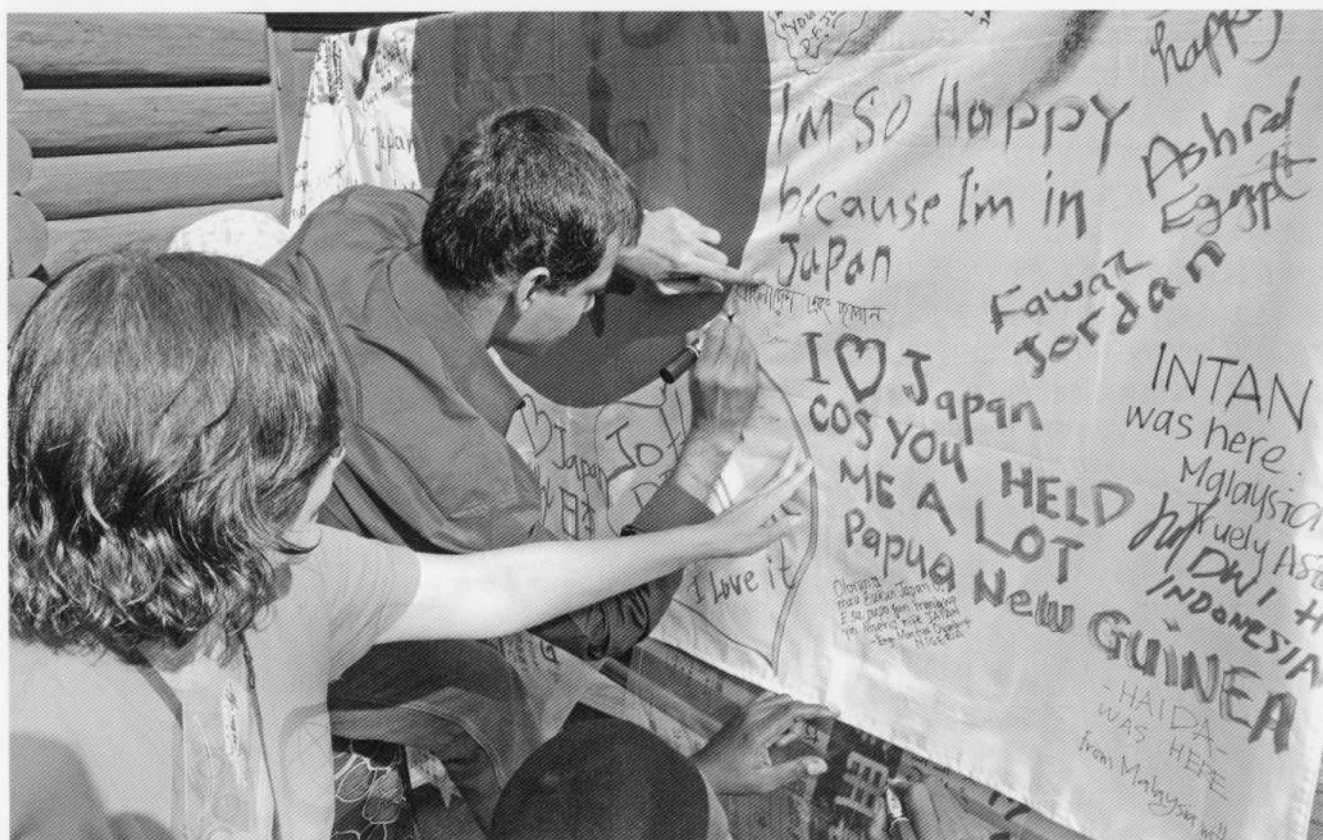
守谷市国際交流協会広報委員会発行

MIFA 連絡先 (守谷市国際交流協会担当)

所在地: 守谷市大柏950-1 電話: 0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/~mifa>

E-mail: mifa@fureai.or.jp



『がんばろう 日本』の日の丸に寄せ書きをする JICA 研修員の皆さん (2011.10.16 MIFA フェスタで)

2011 年度 (平成 23 年度) の主な事業

- | | |
|--|---|
| 4.16 MIFA サロン「マインブルクを知ろう」〔ログハウス〕 | 5.22 ~ 7.31 第 49 回外国人のためのボランティア日本語講座〔ログハウス〕 |
| 4.19 ~ 4.28 マインブルク市民来日 (3.11 東日本大震災の影響により中止) | 5.28 ボランティア日本語講師研修会その 2〔ログハウス〕 |
| 5. 7 ボランティア日本語講師研修会その 1〔ログハウス〕 | 5.30 放課後こども教室「太平洋の島国」〔守谷小学校児童館〕 |
| 5. 7 青年交流委員会 新入会員歓迎会〔道頓堀〕 | 6. 4 ボランティア日本語講師研修会その 3〔ログハウス〕 |
| 5. 8 MIFA 理事会〔ログハウス〕 | 6.11 青年交流委員会交流会〔もりや学びの里〕 |
| 5.15 平成 23 年度守谷市青少年海外派遣事業派遣団面接審査参加 | 6.12 平成 23 年度守谷市青少年海外派遣事業派遣団事前研修参加〔白寿荘〕 |
| 5.22 Welcome to MIFA〔ログハウス〕 | 7.11 放課後こども教室〔黒内小学校体育館〕 |
| 5.22 MIFA 総会〔ログハウス〕 | 7.25 ~ 8.5 守谷市青少年海外派遣事業〔マインブルク市〕 |
| 5.22 総会後講演会「宇宙から見た守谷と東日本大震災」〔ログハウス〕 | 7.31 第 49 回外国人のためのボランティア日本語講座修了式〔ログハウス〕 |



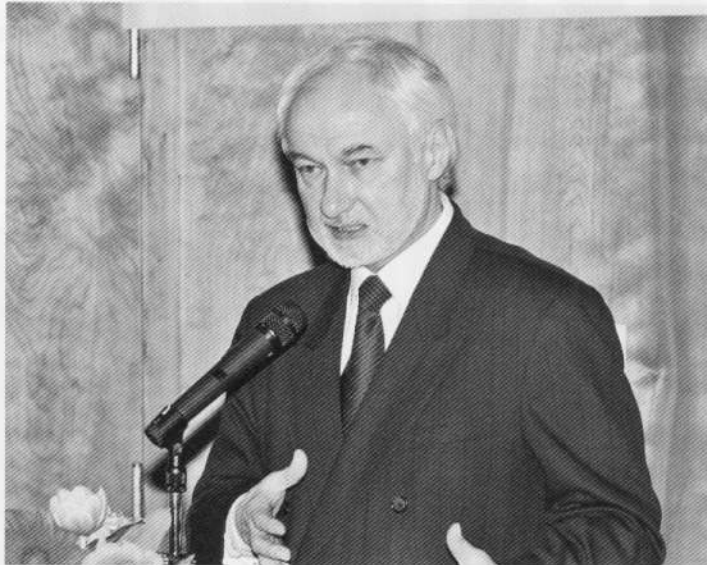
面積は小さいけれど大きな国

2月25日、「世界を知るシリーズ 大使講演会」がスロヴァキアの特命全権大使・ドゥラホミール・シュツス大使をお招きし行われました。

朝のうち降っていた雨も講演会が始まる頃には上がり、会場となったログハウスは、75人の参加者の熱気で暑いくらいでした。

恒例になった大使講演会も今回で19回を数えます。発足間もない1993年（平成5年）のイスラエル大使をお招きした第1回から、大使本人にお話を伺うことを心がけ、今回の講演で大使・公使本人にご来場していただくのは10人にのぼります。

大使はスロヴァキアの文化、歴史について余すことなく触れられ、参加者から出された質問にも、考えながら一つひとつ丁寧に答えられていました。参加者たちはその長い歴史の一端に触れ、



大使の魅力とともに交流会が終わった後も余韻を楽しんでいました。



【スロヴァキアメモ】

スロヴァキアはヨーロッパの中央にあり、オーストリア、ハンガリー、チェコなどと国境を接している人口540万人の国です。2009年1月1日、欧州の単一通貨「ユーロ」を、旧共産圏の国としては初めて導入、16カ国目のユーロ加盟国となりました。首都はブラチスラヴァ。人口45万人のスロヴァキア共和国最大の都市です。

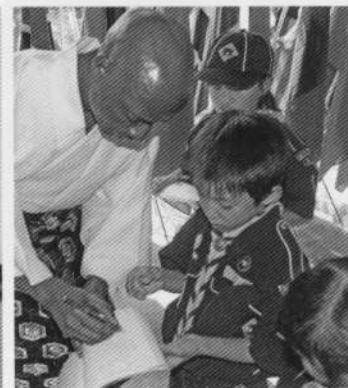
長い歴史を彩るお城や豊かな自然の恵みをもたらす平野、スポーツに絶好な山岳地帯とスロヴァキアには様々な魅力があります。

- 8. 5 平成23年度守谷市青少年海外派遣事業派遣団帰国報告会〔市役所〕
- 8.20～8.21 北守谷地区夏祭出店〔立沢公園〕
- 8.26 守谷市国際交流員ベッカー・ヨーク氏着任
- 8.30 平成23年度第1回国際交流・協力ネットワーク会議及び多文化共生推進会議参加〔茨城県開発公社ビル〕
- 9. 3 第1回英語でおしゃべり「hobby」〔ログハウス〕
- 9. 4 古河市国際交流協会視察〔ログハウス〕
- 9.24 青年交流委員会新入会員交流会〔新三郷ボウリング場〕
- 9.24～9.25 第28回守谷市商工祭～きらめき守谷夢彩都フェスタ出展〔守谷駅西口広場〕
- 9.28～12.7 第50回外国人のためのボランティア日本語講座〔ログハウス〕
- 9.30 定住外国人の就労・就学サポートに関わる情報交換会参加〔常総市〕

- 10. 1 ボランティア日本語講師研修会（中級前期）その1〔ログハウス〕
- 10. 1 第2回英語でおしゃべり「アメリカ」〔ログハウス〕
- 10. 3 放課後子ども教室〔大井沢小学校体育館〕
- 10. 8 ボランティア日本語講師研修会（中級前期）その2〔ログハウス〕
- 10.16 MIFA フェスタ2011「われら地球人」〔ログハウス〕
- 10.19 筑波大学学長主催外国人留学生懇談会、地域交流団体との意見交換会参加〔筑波大学〕
- 10.21 アーカスプロジェクトオープニングセレモニー出席〔ログハウス〕
- 11. 5 第3回英語でおしゃべり「旅行」〔ログハウス〕
- 11.12 第15回MIFAコンサート パラグアイ音楽「アルパ」〔ログハウス〕

「がんばろう 日本」

MIFAフェスタ
2011



10月16日、JICA研修員を招待して、秋恒例のMIFA フェスタがログハウスを会場に行われました。参加者は、JICA研修員が30カ国、43人、そのほかドイツ、アメリカ、中国の方の参加もあり、日本を含め34カ国、210人の一大イベントとなりました。

今回はフェスタでは初めて行われる投扇興や恒例の



着物の着付け、茶道、書道や折り紙体験など日本文化を紹介し、あちこちで高校生やボーイスカウトの若い人たちと交流する姿が見られました。これをきっかけに若い人たちが今後、国

際人に育つきっかけになればと思います。

後半のパフォーマンスでは、ひょっとこ、よさこいソーランにJICA研修員も飛び入りで参加し、最後は参加したたち全員が大きな輪になって踊りを楽しみました。

最後に、研修員から寄せられたメッセージが書かれた日本国旗を中央に集合写真を撮り、「がんばろう 日本」の一体感を記念として残すことができました。



- 11.19 外国人のためのボランティア日本語講座第50回記念行事「太巻き・おにぎり作り、茶道体験」〔ログハウス〕
- 12. 3 第4回英語でおしゃべり 「Food」〔ログハウス〕
- 12. 3 ログハウス飾り付け 〔ログハウス〕
- 12. 8 第50回外国人のためのボランティア日本語講座修了式 〔ログハウス〕
- 12.10 イヤー・エンド・パーティー 〔ログハウス〕
- 12.27 ログハウス飾り付け撤去 〔ログハウス〕
- 1.14 「ようこそ守谷へ2011」出展 〔市民交流プラザ〕
- 1.14～15 筑波大学留学生ホームステイ 〔ログハウス〕
- 1.18～03.21 第51回外国人のための日本語講座 〔ログハウス〕
- 1.21 ボランティア日本語講師研修会（中級後期）

その1 〔ログハウス〕

- 1.21 国際理解WG定例会 「ブータンの紹介」〔ログハウス〕
- 1.28 ボランティア日本語講師研修会（中級後期）その2 〔ログハウス〕
- 2. 4 第5回英語でおしゃべり 「MOVIE」〔ログハウス〕
- 2. 8 放課後子ども教室 〔大野小学校〕
- 2.25 世界を知るシリーズ第19回 「スロヴァキア大使講演会」 〔ログハウス〕
- 3. 3 第6回英語でおしゃべり 「フリートーク」 〔ログハウス〕
- 3.17 MIFA サロン「東ドイツの日常生活と1989年からの変化」 〔ログハウス〕
- 3.25 国際理解講演会 「ボルネオの熱帯雨林と日本の便利な生活とのつながり」 〔ログハウス〕
- 3.31 MIFA ニュースレターNo.56発行（全戸配布）

特集 国際理解WGの活動



「放課後子ども教室」

5月30日守谷小学校、7月11日黒内小学校、10月3日大井沢小学校、2月8日大野小学校を会場に「放課後子ども教室」を行いました。テーマはい

ずれも「太平洋の島国」で、4校とも100人近くの児童が参加しました。

守谷小学校ではプロジェクターを使いスクリーンに大きく映し出した映像に子どもたちは興味深げに見入っていました。大きな石のお金やバンジージャンプ、島国の深刻なごみ問題にも触れ、子どもたちの反応は良く、十分楽しんでくれたようです。

黒内小でも貝のコーナーは大人気。子どもたちは元気にクイズに参加し、質問や自分の意見を発表していました。



「ブータンレポート」

1月21日に行われた定例会では、ブータンレポートが行われました。

ブータンはGNPの代わりにGNH（国民総幸福量＝Gross



National Happiness）を指標に国造りを進めています。国連では「後開発途上国」に分類され、世界の最貧国とも受け取られる国ですが、物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさも尺度に入れた「幸福量」を提唱しています。多くのブータンの人にとってGNHは、マーケティングの道具でもなければ、ユートピア哲学でもありません。生きていくための具体的な構想なのです。GNHの柱は、①持続可能な開発、②環境保護、③文化の保全と振興、④優れた統治の4つ。今、ブータンは、GNHを掲げて政策を推進することで、世界の注目を集めています。

参加した人たちは、美しいヒマラヤの景色や穏やかなブータンの人たちの笑顔を見ながら、何を思い、何を感じたのでしょうか。

「国際理解ワークショップ」

～ボルネオの熱帯雨林と日本の便利な生活のつながり～

3月25日、国際理解ワーキング・グループ主催による講演会が行われました。

今年のテーマは「環境保全」。今、地球の命と言われている熱帯雨林の生態系に変化が起っています。ボルネオでは、



熱帯雨林の伐採、アブラヤシ大規模農園の乱開発等で野生動物のすみかが失われつつあります。これらの変化は、遠い国の出来事ではなく、実は、日本の便利な生活と関わりがあるのです。

講師は星槎大学准教授でボルネオ保全トラストジャパン理事長をされている坪内俊憲先生で、ボルネオが置かれている状況、発展途上国の開発と地球規模の環境保全についてお話しいただきました。限られた世界の中で、どう環境を維持しつつ開発を行っていくのか、再生可能なエネルギーだけで今の私たちの生活は継続できるのか。後世への負担はどの程度許されるのか。さまざまな課題を与えられた2時間でした。

国際理解WG活動に参加しませんか

国際理解WGは、3年前から「太平洋の島国」というテーマで、市内各小学校の「放課後子ども教室」に参加してきました。活動の中で子どもたちに伝えたいことは、「世界にはいろいろな国があることを知り、それらの国に興味を持ち、世界中の人たちと仲良くなろう」ということです。

24年度は新たなテーマに取り組みます。それは、子どもたちに具体的に世界とのつながりを感じてもらう機会を提供することで、世界の伝統的民族衣装の試着体験やその国の具体的な文化・生活を写真、展示物、本などで紹介しようと考えています。

そのため、海外に滞在していた方、海外の情報をお持ちの方、環境問題について知識のある方、途上国支援に関心のある方、「放課後子ども教室」スタッフとして参加いただける方を募集しています。

また、「放課後子ども教室」で使うための世界の民族衣装や工芸品などを探しています。提供いただける方がおりましたら、あわせてご連絡をお願いします。

お問い合わせはメール（1面右上）またはFAX（0297-47-0188）でお願いします。

定例勉強会：毎月第3土曜日午後4時～6時（ログハウス）

第15回MIFAコンサート

今年は「アルパ」



スペイン語で「ハープ」と呼ばれる楽器を、ラテンアメリカでは「アルパ」と言います。11月12日にログハウスで行われたMIFAコンサートは、「アルパ・デュオ ソンリーサ」のエンリケ・カレーラさん、松木亜里沙さんご夫妻をお呼びしてのコンサートでした。

ご夫妻ともに世界を舞台に活躍されており、エンリケさんは心地よい力強さの中に優しさを感じさせる音色で、亜里沙さんは優しく繊細な音色で聴衆を魅了しました。エンリケさんは、2010年9月に行われたキリンチャレンジカップでパラグアイ国歌を斉唱したこともあります。

コンサートはLlegada（到着）から始まり、



El Condor Pasa（コンドルは飛んでいく）と続き、最後は「Moliendo Café」で締めくくられました。この曲は日本では西田佐知子さんが歌った「コーヒールンバ」という曲で

知られていますが、原曲はベネズエラの作曲家ホセ・マンソ・ペローニがコーヒーをモチーフに1958年に作詞・作曲したもので（意味は「コーヒーを挽きながら」）、ペローニの甥でアルパ奏者のウーゴ・ブランコの演奏で世界的にヒットした曲です。

コンサート終了後の懇親会では、楽器に触れることもでき、子どもたちも弦を弾きながら目を輝かせていました。

古河市国際交流協会視察

9月4日、古河市国際交流協会の皆さんがMIFAを視察に訪れました。

古河市は、古河市、総和町、三和町が平成17年に合併して誕生した新しい市です。それまで各自治体にあった国際交流に関係する4つの団体が平成20年に統合し、古河市国際交流協会として発足しました。現在、会員数は170人で5つの部会があります。

視察には古河市から33人の会員が参加し、MIFAの出席者を合わせると46人という大人数の会合になりました。設立間もないため、古河市からは「会員の募集方法」「協会内の人材育成」「事務所や事務員の体制」「市のバックアップ」「在住外国人との交流で力を入れていること」「駐日大使講演会を開催するための交渉は」「JICAとの関係をどのように築いたか」



など具体的で幅広い質問がありました。

MIFAも設立前後に先進市を視察し、さまざまな知恵を拝借し協会活動の参考にしてきました。視察に訪れる団体があるということは、MIFAの活動が評価されているとも考えられます。また、どのような活動をしていてもそれが対外的に発信されなければ他の目に留まることもありません。これからさまざまな機会を捉え、積極的に活動をPRしていきたいと考えます。

MIFA 総会

5月22日、平成23年度MIFA総会がログハウスで行われました。

会長あいさつのあと、橋本孝夫守谷市副市長の来賓あいさつがあり、続いて議事に入り、2010年度活動報告・決算報告・監査報告、2011年度事業計画・予算案が承認、可決されました。

また、今年度は役員改選の年にあたり、理事・監事の選任について提案があり、原案のとおり承認されました。その後臨時理事会が開催され、理事の互選により会長・副会長が選出され、名誉会長・顧問・事務局長などが委嘱され、2年間の役員体制が整いました。



総会の後、MIFA会員である千葉大学協力研究員・伊東明彦さんによる「宇宙から見た守谷と東日本大震災」をテーマに講演会が行われました。

北守谷夏祭に出店



8月20日、21日の二日間に行われた北守谷地区夏祭に出店しました。あいにくのお天気で売り上げは思ったよりありませんでしたが、親睦を重視し、二日間で69人もの人たちがお手伝いしてくれました。中でも青年交流委員会の協力が大きかったです。机や椅子、発電機や照明器具などいろいろな方の協力で用意できました。

MIFAのPRにもなり、また、裏方をしながらの交流もあり、夏祭を楽しみながら集う良い機会となりました。

ショーケースを購入

11月末、MIFAはショーケースを購入し、ログハウス小ホールに設置しました。

これまでさまざまな国・機関・人たちと交流し、大使講演会やMIFAサロン、姉妹都市交流などを通じて、プレゼント交換を行

ってきましたが、それらを展示する場所がありませんでした。

今回、せっかくの贈り物を市民共有の財産として見ていただくよう設置したものです。

ログハウスに来られたとき、ちょっと覗いてみませんか。



商工まつりに出店

9月24日、25日に守谷駅前広場で行われた守谷市商工まつりに出展しました。

祭り自体は年々盛んになりそれなりの人出もありました。新規会員の加入はありませんでしたが、MIFAの活動を知ってもらう良い機会になりました。

バザーも会員から物品の提供がたくさんあり、収益を上げることができました。提供された会員に感謝いたします。



日本語講座あれこれ

「日本語講座第 50 回記念行事」

1994 年から故加納正康先生が提唱して始まった「外国人のためのボランティア日本語講座」も、9月28日から始まった回が、区切りの50回目の開催となりました。

これを記念して、11月19日に日本語講座受講生やその家族10人と講師を務めているボランティア13人がログハウスに集まり記念行事を行いました。

当初、バスハイクという案もありましたが、いつも講座で顔を合わせる人たちですが、講座ではゆっくりプライベートなことまで話す時間もないので、日本の食文化を紹介しながらの懇親会がよいのではという意見があり、皆で太巻きやおにぎりを作り、日本固有の果物の柿を味わいました。講師が師匠となった茶道体験や守谷かるた、碁並べ、将棋などの日本のゲームも行い、楽しい一日となりました。



「日本語講師勉強会」

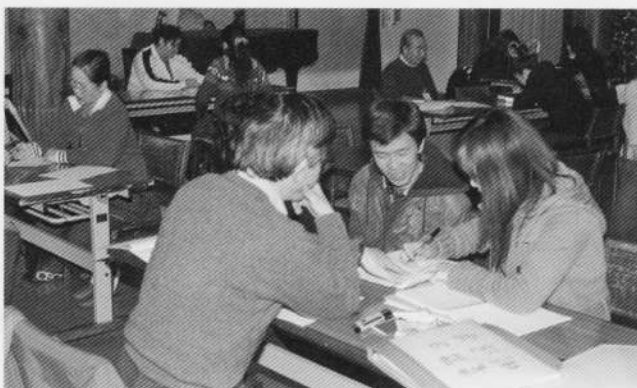
日本語ボランティア講師研修会中級コースが、春と秋に行われ、16人の受講生が日本語講座の受講生をいかに指導するかを学びました。



「ボランティア日本語講座」

今年度も3回、日本語講座が開かれました。東日本大震災の影響もありましたが、例年どおりの開催となりました。

修了式では、恒例の受講生による日本語スピーチが行われ、学習の成果を披露しました。



英語でおしゃべり

MIFA CHAT SALON



9月3日から語学研修委員会の新規事業「英語でおしゃべり MIFA Chat Salon」が始まりました。

このサロンは、「英語が好きな人」、「普段英語を使

う機会がなくて」と思っている人」、「いろいろな人と英語で話してみたい」、「ただ今英語を勉強中」などの人を対象に、お茶を楽しみながらおしゃべりをする企画です。

初回のチャット（テーマは「hobby」）には37人が参加し、アンケートでは、「とても楽しくできた」「話が弾んで、時間が足りないくらいだった」「久しぶりに英会話を楽しんだ」「コーディネーターがいたから安心だった」「次回もまた、参加します！」などの感想が寄せられています。

開催は毎月第一土曜日。毎回違うテーマで行い、第2回の「アメリカ」では、ALTのエミリーさんをお迎えして日本の印象などをお聞きしました。

この催しは4月以降も毎月行います。興味がある方はぜひご参加ください。

なお、ブログを作成しましたので、テーマの確認や参加申し込みはブログからお願いします。

(Googleなどで「MIFA chat salon」で検索)

MIFA サロン

「マインブルクを知り、行ってみよう」

4月16日、マインブルク市との市民交流をもっと深めようと、前回の守谷市青少年海外派遣時の写真を使い、同市を紹介するサロンが行われました。

参加者の中には23年度の海外派遣事業に応募予定の中学生もいて、参加者からは、もう少し詳しくマインブルク市について知りたいという発言もありました。



市民レベルでの姉妹都市交流をどう進めていくかこれからも検討したいと思います。

「東ドイツの日常生活と1989年からの変化」

3月17日、ログハウスを会場に、守谷市国際交流員のヨークさんをお招きして、東ドイツ崩壊を日常生活の観点から語っていただきました。また、昨年度青少年海外派遣団の団長にも、マインブルク市の体験談



を語ってもらいました。講演会終了後、交流会が行われ、お茶を片手にあちらこちらでドイツ談義の花が開きました。

筑波大留学生ホームステイ

1月14日から15日にかけて、筑波大学留学生を対象としたホームステイが行われました。今回は留学生6人（中国2人、タイ・ドイツ・ペルー・ルーマニア各1人）から希望がありました。当日、受け入れが1家庭キャンセルになりましたが、2人を受け入れてくれた家庭があり、無事行うことができました。

対面式ではMIFA会員が書道でのカレンダー作りを指導し、書道の実演も好評でした。人数が例年より少なかったこともあり、留学生のお国自慢コーナーにも十分な時間を取ることができて、楽しめました。



MIFAでのホームステイは筑波大学留学生の間でも好評とのことで、また、受け入れを希望する家庭も多く、今後も継続していく予定です。ただ、市報などでの公募は行わず、留学生の受け入れを希望する方は、事前の登録が必要になります。メール（アドレスは1面右上に記載）でお問い合わせください。

今年のイヤヤー・エンド・パーティーは 歌声喫茶

平成23年の締めくくりは、12月10日に行われたイヤヤー・エンド・パーティーでした。

今年度は、3月の震災の余波で様々なイベントなどが中止、延期され、春だけでなく秋には台風の影響で日本語講座も1週繰り延べになるなど記憶に残る年となりました。また、ここ数年受け入れていた「東アジア青少年大交流計画」によるホームステイもありませんでした。声がかかれば受け入れようと心待ちしていたのに、残念な結果になりました。

一方、10月に行われたMIFAフェスタでJICAの研修員が書いてくれた寄せ書きのように、世界の人たちとのつながりを改めて感じさせてくれた年でもあります。放射能汚染を心配したマインブルク市民からは「守谷市の子どもたちを受け入れようか」とのメッセ



ージが届いたこともうれしいことでした。

パーティーのアトラクションでは、老人ホームの慰問を続けている「Y to K」の皆さんによる演奏が行われ、中高年には懐かしい「旅人よ」「二人でお酒を」「なごり雪」などの曲が演奏され、参加者全員が合唱に参加するコンサートとなりました。

また、日本語講座受講生のタイ人の方が自国の料理を持参してくれて、外国の家庭料理も楽しめ、24年につながる交流会となりました。